

令和3年度 利用学習事業実施報告



地底の森ミュージアム
仙台市縄文の森広場

目 次

I	利用学習の基本的な考え方	1
1	文化財普及活動と利用学習	
2	学校教育における位置づけ	
3	実施までの流れ	
II	利用学習事業参加校及び体験内容一覧	2
III	利用学習報告書（実績まとめ）	3～6
IV	参加校の学習まとめ①	7～8
	参加校の学習まとめ②	9～13
	参加校の学習まとめ③	14～15

I 利用学習事業の基本的な考え方

1 文化財普及活動と利用学習

仙台市ではこれまで、文化財の保護・活用への理解と必要性について市民の理解と認識を深めるために、「文化財せんだい」等の各種広報誌の発行や埋蔵文化財の発掘調査時における遺跡見学会の実施など、数々の普及啓発活動を行ってきた。その成果もあり、一般に文化財に対する市民の関心は高く、また生涯学習への意欲も強い。

仙台市は平成4年に「仙台市旧石器の森・原始古代村構想」を策定した。昭和55年に保存が決定された縄文時代の遺跡である山田上ノ台遺跡と、旧石器時代の遺跡である富沢遺跡、多賀城以前の役所跡である郡山遺跡などを連携させながら、歴史教育の場としてそれぞれを整備していこうとする構想である。この構想を具現化する施設として、平成8年11月、遺跡の緊急保存を必要とした富沢遺跡に地底の森ミュージアムが開館した。以来、学校教育との連携を1つの大きな柱に掲げ、館の予算で送迎バスを借り上げ、見学や体験を中心とした学習活動を展開する利用学習事業を行ってきた。平成18年7月には分館として山田上ノ台遺跡に仙台市縄文の森広場が開館し、両施設を活用した利用学習事業が実施できることとなった。

また、平成14年度の仙台都市圏「どこでもパスポート」にはじまる、県内各圏域でのジュニアパスポート等を利用した見学も活発である。平成18年度からは「どこでもパスポート」の提示により平日も無料で入館できるようになったことで、学校が終わってから来館する児童・生徒の姿も見られる。利用学習事業参加の児童・生徒が家族や友人とともに再来館することも多く、本事業は学校教育との連携を促進するだけでなく、文化財に親しみ、愛護する精神を育成するきっかけとしても効果的である。

2 学校教育における位置づけ

学校教育の中での博物館利用については、令和2年度から全面实施された新学習指導要領の中でその必要性が述べられている。小学校学習指導要領・社会科「●第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学校においては、地域の実態を生かし、児童が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。」「博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること。」と記載されている。

3 実施までの流れ

事業の参加校は、前年度末に各学校宛に実施要項を送付し、次年度分を募集して決定している。参加決定後は、来館前に当日の活動内容や体験等について、両館それぞれに事前に打ち合わせをして利用学習計画書を提出してもらい、実施後は、事後指導の機会を利用して児童生徒の感想などをまとめたいただき、利用学習報告書と一緒に提出（感想まとめ等は任意）してもらっている。実施開始時期は6月からである。これは、令和2年度からの学習指導要領の改訂により、小学校6学年の社会科の歴史学習が6月後半から始まることに合わせている。

実際の活動については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、コロナ禍以前のような受入れ態勢はできず、内容や一日の収容人数を制限して実施している。学校はなかなか校外学習の実施が難しい状況にあるため、事前の打合せではその対策も含めて綿密に行っている。施設としても、極力、感染者がでることがないように細心の注意を払ってこの事業を進めている。

Ⅱ 利用学習事業 参加校及び体験内容一覧

No.	利用日		学 校 名	参加 学年	参加人数		体験活動								施設利用
							地底の森	縄文の森（土ミニ250g/土小500g）							
					児童	引率		勾玉	石アク	土ミニ	土小	土面	土笛	火起	
1	6月2日	水	八本松小学校	6	83	5	83				83				両館
2	6月3日	木	根白石小学校	6	20	2	20		20						両館
3	6月4日	金	折立小学校	6	43	4	43		43						両館
4	6月8日	火	太白小学校	6	25	2	25	25							両館
5	6月11日	金	立町小学校	6	41	4	41		41						両館
6	6月15日	火	中田小学校	6	82	4	82		82						両館
7	6月17日	木	大和小学校	6	82	5			82						縄文の森
8	6月18日	金	川前小学校	6	77	4	77		77						両館
9	6月22日	火	連坊小路小学校	6	84	5	84		84						両館
10	6月25日	金	東仙台小学校	6	81	4	81		81						両館
11	6月29日	火	福室小学校	6	103	5	103		103						両館
12	7月2日	金	向山小学校	6	42	2	42								地底の森
13	7月13日	火	四郎丸小学校	6	89	4	89		89						両館
14	7月15日	木	秋保小学校	6	7	1		7						7	縄文の森
15	7月16日	金	荒井小学校	6	65	4	65		65						両館
16	10月1日	金	西多賀小学校	6	75	4					75				縄文の森
17	10月5日	火	鶴巻小学校	6	69	3			69						縄文の森
18-1	11月26日	金	中山小学校①	6	31	2		31						31	縄文の森
18-2	11月30日	火	中山小学校②	6	29	2		29						29	縄文の森
18-3	12月3日	金	中山小学校③	6	28	2		28						28	縄文の森
19	12月9日	木	加茂小学校	6	64	4			64						縄文の森

※地底の森ミュージアムの体験活動内容は、「5. まとめ」に記載している

Ⅲ 利用学習報告書（実績まとめ）

参加校（全19校：小学校19校・中学校0校）

1. 『利用学習に参加して、施設を活用した学習活動が期待通りできましたか？』 ※回答16校

A：できた	B：できたが、期待通りではなかった	C：できなかった
16	0	0

この質問に対しては、回答のあった参加校の全てが「できた」という評価だった。以下に、その理由について詳細を紹介する。（○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見）

- 歴史の学習が始まったばかりの子どもたちに対し、資料や展示物を分かりやすく解説してもらった。滞在中、ずっと職員や学芸員が説明してくれて、大変ありがたかった。
- 歴史学習の導入という状況での利用だったが、様々な体験ができたことで児童の意欲が高まった。早く歴史の学習をやりたいという声が多く聞かれた。
- 石のアクセサリ制作や石庖丁を使う体験など、実際に見たり触れたりすることができたことがとても良かった。
- 実際に展示施設を見ることで、教科書や資料集でイメージしていたものを具体化しながら確認することができた。竪穴住居に入り、広さなど当時の生活を想像できる手立てとなった。
- 体験活動では、短い時間の中で児童が集中して取り組むことができていた。見学後の社会科の学習でも、意欲的に取り組む姿が見られた。
- 体験学習では、石のアクセサリの作り方に関して丁寧に説明してもらい、児童が活動の見通しを持ちながら、意欲的に取り組むことができた。見学学習では、当時使われていた住居や道具に関して話をしてもらうことを通して、学校で学習した内容の理解を深めることができた。
- 子供たちは、授業で学習した内容を再確認しながら理解を深めることができた。また、1グループの人数構成が少人数であったため、それぞれの担当職員にきめ細かく声を掛けてもらえたという点も大変良かった。
- 普段の授業ではなかなか深くまで学ぶことができない旧石器時代・縄文時代の学習内容について、視覚的な教材や体験活動を通して理解を深めることができた。その時代に生きた人を再現したスタッフの演技も見られ、子どもたちも生き生きと学習していた。両館ともスタッフの児童の目線に立った説明が分かりやすく、関心を高めながら最後まで楽しく活動することができた。
- 授業では、資料集で写真や想像図を見るだけだったが、竪穴住居や石器などに触れることで、子どもたちに実感を伴わせることができた。

2. 『担当として本事業に今後も参加したいと思われますか？』 ※回答16校

A：思う	B：わからない	C：思わない
16	0	0

この質問に対しても、回答のあった参加校の全てが「思う」という評価だった。以下に、その理由について詳細を紹介する。（○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見）

- 遺跡や出土品など、“本物”に触れるよい機会であった。教科書の内容がより身近に感じられた。
- 他の施設と比べても、体験活動が充実している。活動後、児童一人一人に制作した物が残るので、良い思い出になる。二つの施設を訪れることにより、教室の授業だけでは得られない学びが多くあると感じた。

- 教科書だけでは得られない体験ができる。
- 専門的な知識のある職員の説明と体験学習のおかげで、学校の授業だけの学習よりも興味や関心だけでなく、理解も深めることができる。
- 体験・見学を通して、当時の生活に興味をさらに抱く様子が児童に見られたと感じている。児童が興味関心を持って歴史学習に取り組む契機としていくためにも、本事業を活用していきたいと考える。
- 学校を離れての学習は、子供たちにとって大変学びが多いことを改めて実感した一日だった。
- 当時の時代に実際に生えていた植物に囲まれ、土器等の質感や、昔の様子を肌で感じることができ体験は、とても貴重だと思う。学習ノートに取り組む姿からも、旧石器時代・縄文時代の暮らしに興味を持ったように感じた。
- 石器使用体験や石のアクセサリーづくりなど、学校の授業では体験できないことを体験でき、大いに役立った。

3. 『館職員へのご要望やご意見、今後の利用学習事業に期待することがあればご記入ください。』

(○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見)

- 子どもたちに対して、とても丁寧に接してくれた。
- 職員の説明が大変丁寧で、子供たちの活動がスムーズに進められた。また、配慮が必要な児童への対応もしてもらい、2名の児童が最後まで参加できたことに感謝している。
- △感染対策で2グループに分かれなければならないことで時間の制限があり、昼食時間を十分に取ったり、じっくりとノートに記入したりする時間が取れなかったのも、午後の終了時刻を延ばしてもらえと、もう少し活動にゆとりが出たのではないかなと思う。
- とても丁寧な対応をしてもらい、ありがたい。今後もこの事業が継続されることを願っている。
- 児童の質問にも丁寧に対応してもらい、感謝している。目を輝かせながら意欲的に活動する姿がたくさん見られ、嬉しく感じた。
- 事前の打合せから丁寧に対応してもらい、ありがたかった。
- 子供たちの目線に立ち、細かく指導してもらい、ありがたかった。特に、体験活動(石器使用体験、石のアクセサリーづくり)では、大変意欲的に活動していた。子供たちも、大変勉強になったと喜んでいて。

4. 『その他のご意見がございましたらご記入ください。』

(○肯定的な意見 △今後の検討課題 ■否定的な意見)

- ぜひ来年度も利用したい。
- このような状況の中、児童が満足できるような手だてを考えてくれて本当に感謝している。これからも機会があったら、利用学習を希望したい。
- バスの手配など、交通面の補助があるのはとてもありがたいと感じた。来年度以降も継続してもらいたい。
- この事業に参加するにあたり、コロナウイルス感染防止対策をはじめ、児童への指導など様々な場面で配慮してもらった。

5. まとめ

令和3年度の利用学習事業参加申込は市内小学校19校で、予定通りすべての学校が施設見学と体験学習を終えることができた。昨年度来の新型コロナウイルス感染症の影響で、参加校はそれ以前の3分の2程度の数である。しかし、感染が広がり始めて先行き不透明だった昨年度の全13校の参加数に比べると、感染防止対策等の効果もあってか、数的にはやや持ち直してきた感がある。参加児童数で見ると、昨年度は1,014名で、今年度は1,220名となっている。この数値は、参加校数の増加を考えるとあまり増えていないようだが、今年度は大規模校の参加希望が減って、小中規模校の参加が大勢を占めているからだと言える。ちなみに、コロナ禍以前の令和元年度は28校1,869名の参加児童数であった。

この利用学習事業は、学校教育の中で「地底の森ミュージアム」及び「縄文の森広場」を効果的に活用する授業実践のために、各学校から両館への往復の交通費を補助するものであるが、事業予算の都合上、参加校数によって補助額が変動する。令和元年度は参加28校全てに全額を補助することができた。また、コロナ禍の令和2年度・3年度についても、参加校数の減少もあり全額を補助することができた。

学校が利用学習に参加するにあたって一番心配していたのが新型コロナウイルス感染症である。これについてはその対策をでき得るかぎり行ってきた。学校と施設の移動に使用するバスは、昨年度は乗車率を50%以下に押さえ、今年度は補助席を使わない乗者数にして必要台数を配車した。

各館の対策としては、地底の森ミュージアムでは、3密の回避等が求められるなか、従来の石器製作体験は授業内容として不適と判断し、館員で検討して以下の授業内容を開発した。ポイントは下記点である。

- ・20名以下の小グループに分け、離れた会場で活動を行うことで密状態を回避する
- ・近接しなくても説明や助言などを行うことができる活動内容にする
- ・児童が同一方向を向いて活動できるよう、座る位置などを調整する

<令和2年度>※グループに分かれ、4つの活動をローテーションで行う。

会場	地下展示室	1階展示室	研修室	芝生広場（展望ラウンジ）
内容	遺跡の展示解説・年表を用いた説明	2万年前の環境体験・ワークシートを用いた自由見学	石器使用体験	ミュージアムシアター「狩人登場！」見学・解説

<令和3年度>※グループに分かれ、4つの活動をローテーションで行う。

会場	地下展示室	1階展示室	研修室	芝生広場（展望ラウンジ）
内容	遺跡の展示解説	年表を用いた説明・ワークシートを用いた自由見学	石器使用体験	ミュージアムシアター「狩人登場！」見学・解説

令和2年度実施終了後、館員で相談した結果、地下展示の暗い時間帯に年表を使って説明することを避けるため、1階展示室で年表を使用することとした。（※地下展示は、復元映画上映の暗い時間帯と明るい時間帯が10分置きとなっている。）

また、縄文の森でも、見学に際して少人数に分けてできるだけ密を防いで案内をし、体験活動では1テーブル1名を基本に作業を進めた。児童数の多い学校では1テーブル2名の利用ということもあったが、対角に座りその間をアクリル板で仕切る対策を取った。昼食は、ほとんどの学校が広場を利用できる縄文の森であった。あいにくの天気の際は館内利用となったが、その場合は活動室のテーブルに2名がけで座り、間をアクリル板で仕切った。また、館内の場所を分けて、極力密にならないようにした学校もある。昼食をとる子供たちは、学校の給食時と同じようにしっかりと黙食をしていた。このような両館の対策により、参加校はさほど心配なく見学や体験ができたと報告書でも評価している。次年度も

このような対策は継続していくことになる。

今年度の参加校から提出された事後報告書を見ると、上記 1. 及び 2. に前述していることだが、「利用学習に参加して、施設を利用した学習活動が期待通りにできたか」という問いには、参加校全てが「できた」と回答している。また、「本事業に今後も参加したいと思うか」という問いにも、同じく「思う」と回答している。その理由を大きくまとめると、どの学校も、実際に展示施設を見学して本物に触れたり、当時の暮らしや技術を体験したりすることで、子供たちが歴史学習に興味関心を抱き、その後の学習意欲と理解の向上につながっているからということを挙げている。これは、先史時代を扱う歴史博物館としてその価値が評価されていることである。さらには、本事業に参加した子供たちが、学校の授業での成果だけに終わらせるのではなく、その後の生活の中で再度、楽しみながら旧石器や縄文時代の暮らしや技術を体験することを通して、過去の歴史を踏まえて今を見つめ直すきっかけとして利用してもらうことを期待している。

学校は今、コロナ禍で校外学習の実施がなかなか難しい状況にある。先に述べたように今後も感染対策をしっかりと行い、安心して利用学習に参加してもらえるように、また両施設の利用価値をさらに幅広く周知してもらうために、広報活動にさらに積極的に取り組んでいかなければならない。

Ⅳ 【参加校の学習まとめ①】

◎ 仙台市縄文の森の皆さんへ ◎

- ◎ この前は、縄文時代の事について教えていただき、有り難うございまして。私は、長田さんに、学校で習った事をもと詳しく教えてもらってとても勉強になりました。特に、館内にある、たて穴住居が半分になっている展示がいじに残っています。本物の様で、見た時は、びっくりしました。縄文時代では、どんぐりを食べていたけれど、私は食べた事がないなと思いました。たて穴住居に実際に入らせていただいていた時に（私のお家とずいぶん違うな）と思いました。そして勾玉づくりでは、上手につくれる方法や、最短で上手にできる方法を^{大きい勾玉を使って}教えていただき、自分のなかで満足できる作品をつくりあげることができました。展示について詳しく説明していただいた長田さんや、勾玉の作り方を教えていただいた方がたをはじめ、縄文の森の皆さん、ありがとうございました。

仙台市縄文の森の方々へ

10月5日火曜日の校外学習で縄文の森に来た時に、勾玉作りや、縄文時代についていろいろ教えて下さりありがとうございました。勾玉作りでは石をけする時、まるくする時、もつまるくする時、じかじかにする時などを一つ一つていねいに教えてくれました。最初はまるくする時に少し難しかったけど最後はきれいな勾玉が出来たと思います。これは分かりやすくていねい教えてくれたおかげです。勾玉作りを教えくれたみなさんありがとうございました。縄文の森のしせつの展示室1では、縄文時代に使われた道具について分かりやすく説明してくれました。展示室2では縄文時代の暮らしについて説明してくれました。縄文のムラ・広場ではたてあな式住居の中にはいたりしてていねいに教えてくれました。仙台市縄文の森のみなさん本当にありがとうございました。



たてあな式住居

【参加校の学習まとめ②】

1 子供たちの土器作り前のデザイン画



土器作りに行く前に、図工の時間と関連付けて、土器のデザイン画を描いて、当日を迎える。

2 野焼き体験の子供たちの感想から…

ぼくが、野焼き体験で学んだこと・感じたことは1つの土器を作るだけでも長い時間が掛かっていることです。1つの縄文土器を作るのに想像以上に乾燥や野焼きに時間が掛かっていたので驚きました。

土器を置くとときに熱くて目が痛くなったけど、木の板を置いて火がどんどん燃え広がっているのを見ているときに、大変だけど縄文時代の人々は、土器は時間をかけて丁寧に作って暮らしているんだなと思いました。

僕が、縄文土器の野焼き体験でわかった事、感じた事は火の熱さです。僕達は、3番目で少し雨が降っていても、火が思ったより熱くて、担当の人が機械で温度を測ったら、「火の周りは100度、火の中は、600度位だね」と言っていて驚きました。この事から僕は、昔の服は、肌が出ていて熱そうなのに、頑張って縄文土器を作っていたのかと感じました。野焼き体験はとても楽しくていい経験になりました。

土器を焼くのに思った以上に激しい火を使っていて昔の人が、どれだけ苦労して土器を作っていたかを学ぶことができた。

あんな火の近い所で土器を焼いて、縄文時代の人はいかに熱くて大変な作業をしているんだなと思いました。普段、土器なんて作ることもなかったからすごく良い体験ができたと思いました。

熱くて見てられなかったけど土器を日に近づけたり木を持っていたりして大変だったけど楽しかったし、これからこんな経験をすることはないと思うから、とても貴重な体験でした。

学んだことは、縄文土器作るまでに、こんなに時間が掛かるということです。火をつけて縄文土器を木の板の上に乘せて約1時間待ってから火の近くに土器を入れて、約30分後には火の中に土器を入れるということでした。火の中に入れないと土器が作れないということに、びっくりしました。感じたことは、縄文人は土器を作るのにかなりの時間を掛けていたのだなと思いました。

初めの縄文土器は、オレンジ色のような色をしていたけど野焼き体験が、終わったときの縄文土器は色がうすくなっていてびっくりしました。

土器を真ん中に置くと、とても熱くて、目に煙が入って痛くてとても大変でした。土器の周りに木を置くと、土器の色を見るときも熱くて目に煙が入ってとても大変でしたが、とても貴重な体験ができて良かったです。

初めて作る縄文土器だったから、火を間近で見たのは久しぶりできれいだと思った。土器の色の変化を見ることができてよかった。 作るのはとても大変で難しかったけど、縄文時代の人たちが土器を大変な思いをして土器を作っていたことが分かった。
縄文土器を作るのに、こんなにも長い時間と手間が必要だということを学びました。縄文時代の人々は、とても苦勞していたのだと感じました。炎がとても熱く、近づくのさえ大変だったのに、土器を炎の近くに置いたり、炎の中に入れたりするのはさらに大変でした。大変だったけれど、また作ってみたいと思いました。
最後に見たときは、最初より赤っぽくなっていて、色が濃くなっていました。感じたことは、土器は、700度くらいの火の中でも、平気なんだなと思いました。
野焼き体験は炭の上に土器をのせる作業で熱く大変だったけど、木を重ねたり、木が燃えてバチバチする音を聞いたりするのが楽しかったです。
野焼きをして、まず土器を焚き火の上にのせました。次に焚き火に薪を近づけるととき少し熱かったです。最後に焼き上がった土器を見てきれいにできていたので良かったです。
火が強く、けむりが多くてけむたかった。火の周りに土器を並べることが熱くて、大変だったけれど、上手く並べられて良かった。木の板が重くて運ぶことが大変だった。
野焼きをしているときに700度と聞き、とても熱く、あれだけ熱いと涙が出てくると分かった。煙で、視界がすごく悪くなり、良い経験になった。
私はCグループだったので土器を火の近くに移す作業をしました。少し雨がパラパラと降ってきて火が消えないか心配だったけれど、なんとか持ちこたえられて良かったです。 火のそばに行くと一瞬で顔が熱くなりました。「土器は投げないように」と担当の方に何回も言われました。時々目に灰が入ってきて目が泣いていました。 一通りの土器が移し終わったら次に平たく切ったある木を運びました。たくさんの木くすが服について大変でした。
縄文時代の人もこんなふうに縄文土器を作っていたんだなと思いました。
・土器を置くとき火がちょっとついてたからすごく熱かった。 ・土器を焼いているとき、風で煙が寄ってきた。 ・焼き終わった土器を見たら、黒っぽかった。
僕が野焼き体験で感じたことは、縄文土器を焼くときの大変さについてです。 僕はDグループで最後の仕上げをしました。その時ぼくは、火の煙や熱さなどで、縄文人はいつもこんなに辛い作業をやっていたのか、と思いました。 今回の経験を踏まえて縄文人の凄さが身にしみて感じました。
野焼き体験では、火の中に土器を入れ、薪をドーム型にし、燃えやすくしました。焼いている土器は少し黒っぽくなっていました。最初の頃は火が弱かったけどだんだん強くなっていて、すごく燃えていました。野焼き体験ができて楽しかったです。
感じたことは、2つあります。1つ目は、暑さです。野焼きの周りは、とても暑くて長袖では、耐えきれなくて思わず脱ぎたくなってしまいました。2つ目は、土器を移動させることです。僕は、Cグループでした。その仕事は、土器を移動させることです。土器自体は、熱くなかったのですが、周りの火は、とても暑くて目が乾いてしまいそうでした。だけれど縄文人の人こんな苦勞をしたと思えば縄文人は、すごいなと、思いました。そのことを考えれば、僕も頑張ろうという気持ちになりました。うまくできて良かったです。
灰が目に入って痛かったけど、土器を、ちゃんと置けたので良かったです。
私は、Cグループで土器をひっくり返したり、木を運んだりしました。自分達で作った土器を火に近づけるときに煙や火花が飛んできたりして、とても熱かったけれど、きれいに作れたと思うので、完成が、楽しみです。

野焼きの僕達のグループは、土器を火の横に置く仕事でした。熱いし、目に煙が入って涙が出てきて辛かったけど、こういうことをいっぱいしていた縄文人はすごいなと思いました。
最初は、明るい土の色が段々と薄いピンク色のようになった。80～100度以上になったとき、煙の量とても多かった。木の板の上にある土器を火の近くに寄せる作業がとても大変だった。
土器を置くときは、黒くなっているところに置くことや、木の板を被せていくときは、大きくて太い木の板は下の方に重ねていって、厚さが薄い木の板は上の方に重ねていくことを教わりました。野焼きしたあとの土器は、茶色に色が変わっていました。色の変化に驚きました。
結構長いこと焼くと、最初のとくと比べて、色が黒くなっていることと、焼くときはキャンプファイヤーのように木を積んでいって燃やすと焼けるということが分かりました。縄文の人たちはこんなに大変な作業をして、縄文土器を作っていたんだなと思いました。
僕は、今回野焼き体験を初めてしました。野焼き体験をする前に色々な人の土器を割らないように気を付けました。野焼き体験をしてみると、結構煙を吸ったけれど、縄文時代の人になった気分です。土器を並べたりしました。初めてやる体験だったけれど、楽しかったです。
初めて野焼き体験をして、僕達Dグループは、仕上げを担当しました。土器を移動するのは、大変で、熱かったけれど、6年生全員が作った土器だし、Dグループが一番大事言われたので、しっかり活動しました。職員さんが野焼きに対する注意などを教えてくれたので、安全に楽しく活動することができました。
学んだことは、木を置くときにどんどん重ねていかないで土器の上に重ならないようにすること。 感じたことは、焼いているときにすごく煙が出るからびっくりしたこと。
Dグループだったから、野焼きは最後でした。火が凄く熱くてビックリしました。実際に火の中に土器を入れるときはもっと熱かったです。火の勢いが激しかったので、土器が焦げてしまうのではないかなと思ったけど、焼き終わったら焦げていなくて安心したし、館内見学のときにみた土器の色と同じような色だったので、縄文時代から現在まで、こうやって受け継がれていったんだなと、思いました。
みんなが作った縄文土器を火の中真ん中の方に置くときに火が熱くて置いたりする作業は少し大変だったけど、みんなで協力してできて良かったです。縄文時代の人たちは縄文土器を作るのにも手間がかかっていて大変だと思うけど、一つ一つの作業を丁寧にやって一つ一つの土器を大事にしていたんだと感じました。
私は、Cグループで、3番目に野焼きを体験しました。野焼きでは、始まる少し前くらいに雨が降ってきてしまい、火が弱まり10分くらいもっと火を熾すために大人の方がやってくれて、その間に写真撮影をしました。火が強くなった頃、板にのっていた土器を火の近くに寄せることをしました。熱さで目がショボショボしました。他には、薪を運びました。思っていたより重く、友達に手伝ってもらいました。縄文人は、本当に大変な仕事をしていたんだなと思いました。
土器を火に近づけるときの火の周りは、とても熱くて目も開けられないほどでした。ですが土器を置くときに投げたり、雑に置いて割ってしまったりしないように注意しながらやることを心掛けました。木を運ぶときは、結構重くて大変でしたが、周りの人にぶつからないようにしたり、誰かが少し落としてしまったりしたらできるだけ拾ってあげるようにしました。 土器を焼く貴重な体験をすることができてとても嬉しかったです。少し不安なところもありましたが無事に終わらせることができて良かったです。土器の最初と最後の色の変化も見ることができて良かったです。

3 完成した土器の展示写真

完成した土器の鑑賞を
図工の時間を使って行
う予定

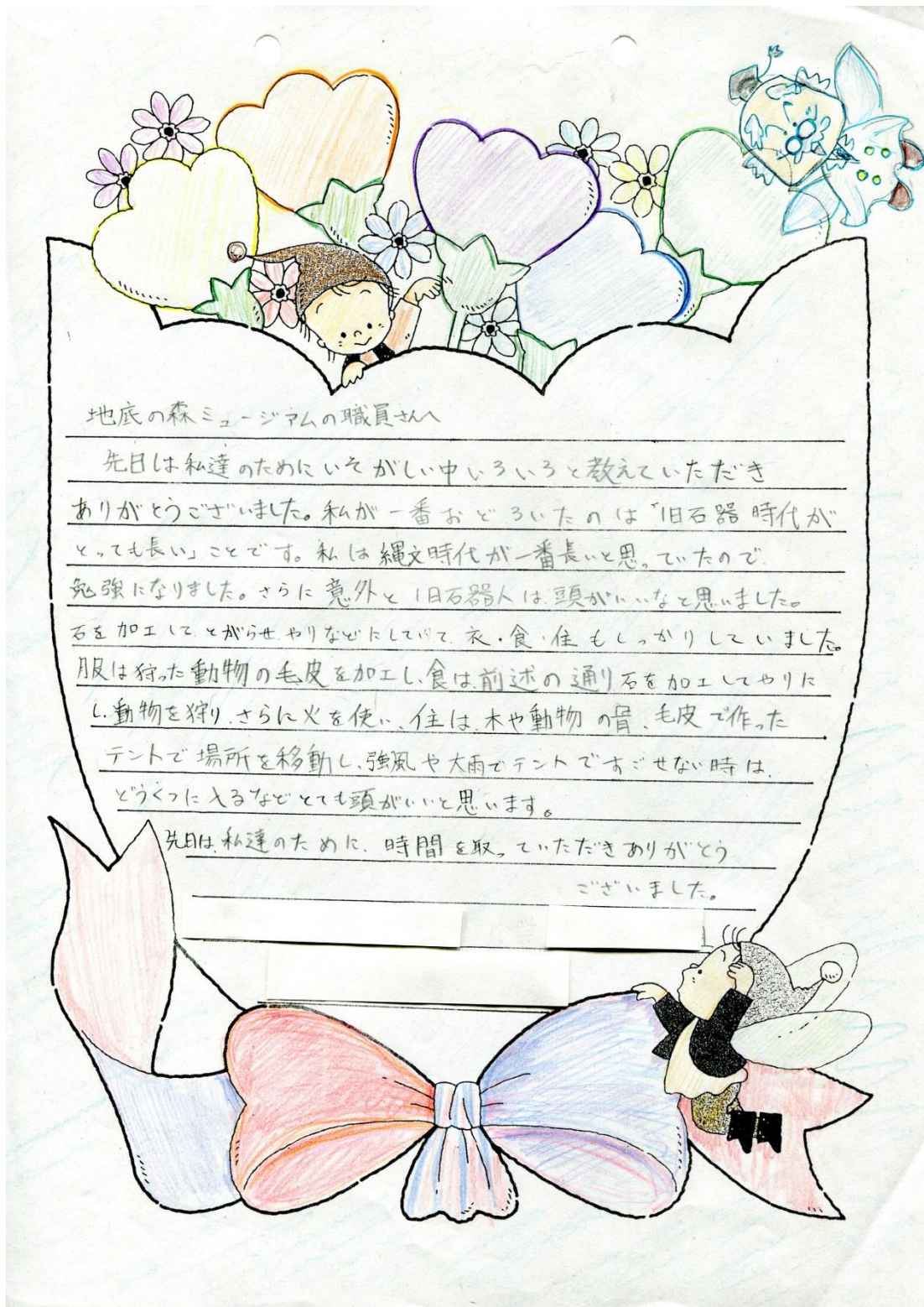


4 収穫体験の子供たちの感想

収穫体験ではいろいろな縄文人の食べていた物を知ることができて良かったです。収穫した時凄く楽しかったです。
縄文時代の人たちは、様々な作物を育てていて、凄いと思いました。
縄文時代でも色々な植物を作っていてすごいと思った。植物のつるもかごなどに活用していてすごいと思った。
すごくたくさんの植物があった。 縄文時代の人々はたくさんの植物を食べていることが分かった。
自分たちで少しずつ作物を集めていくのが大変で、それでも昔の人たちは生きていくために必要だから地道に努力していったということが分かりました。
「学んだこと」米などがなくても、木の実などを加工することで、たくさん食べられることが分かりました。 「感じたこと」少し手で収穫しにくいものもあったけれど、手で簡単に収穫することができました。
昔、食べられていたものの中には、今でもたまに見かけるようなものもあったので、きっといろいろなものを試して、食べられるものを選んでいったんだろうなと思いました。
縄文時代は、収穫の時期によって積んで、生きていることが分かりました。
畑で収穫体験をして、こんなにたくさんの植物があったんだなと思いました。 植物のつるが、かごに使われていて少し驚きました。
縄文時代の畑について今と比べて、豆が小さかったし、今では食べない食べ物もあった。米のない時代で自給自足していたり、みんなで支え合ったりしていた。
縄文人の人達は、僕達の主食の米が無いのに様々な植物や栗などを育てていてすごいなあと 思いました。
・大豆の原種はツルマメという名前で、見た目は小さい枝豆でした。 ・小豆の原種はヤブツルアズキという名前で、見た目は黒い小さな唐辛子でした。 ・他には、アワやキビ、ヒエなどがありました。
いろいろな植物が育てられていて、縄文人がどんなものを食べていたのかがよく分かった。 見たときに、どこが実か分からなくなったりしたけれど、教えてもらって見つけることができた。
縄文人達は、今と比べると、とても質素な暮らしをしていた。
縄文時代の人はいろいろな食べ物を食べているんだなと思いました。 私たちが普段食べているものとは全然違う物を食べていて、びっくりしました。
植物は、縄文時代からあるんだなと思いました。
いろいろな作物があって、楽しかった。
縄文の人が食べていたのものが、案外自分たちがよく食べているものもあったので、驚きました。
畑での収穫体験は、「こんなの食べれるの!」と思うものがあったて、驚きました。
畑では、縄文人が育てていたであろうものを収穫した。私は、意外に食べ物の種類が多くて、びっくりした。栗をたくさん取って楽しかった。縄文人は、あまり食べ物を加工して食べ

ずに、木の実などすぐ食べられるものを多く食べている様子だった。収穫したものは、栗とツルマメや、ヤブツルアズキを取った。今では、見たことがない植物だったり、食べ物を取る貴重な体験ができたりして、とても楽しかった。
たくさんの木の実があって凄かった。
枝豆の祖先が大豆一粒より小さかった。でも栗の実は同じ大きさだった。
意外とたくさんの種類の食べ物があるのだなと思いました。小豆があんなに細長くてパチンと弾けるように出てくるのが面白かったです。アワが生えている畑の辺りに女郎蜘蛛がいてびっくりして、収穫することができなかったけれど、見ることで嬉しかったです。
アケビは一回だけ食べたことがあって懐かしいなと思いました。畑は一見雑草にも見えただけで、しっかりとたくましく成長していて、勇気をもらえました。
畑で、収穫をするとき、栗やどんぐりをひろいました。
畑では、たくさんの食べ物を収穫しました。小さい栗の実や豆などの収穫をしました。
思ったより沢山の種類の木の実があった。
縄文時代には、とてもたくさんの種類の木の実などがあって、びっくりしました。
畑には栗、アワ、ツルマメなどがありました。今は米が主食ですが、昔は植物が主食で驚きました。その後、収穫体験をしていろいろな植物を取りました。とても楽しかったです。
縄文人は畑を使って生活をしていることが分かりました。あまり聞いたことのない植物があったけれど、係の方が詳しく教えてくれました。最後に「植物を少し持ち帰っていい。」と言われました。家に持ち帰って詳しく調べて行きたいです。意外とたくさんの種類があって驚きました。
私が知らない植物がありました。私達が、今、食べていないものも、その当時は食べていることを知って、驚きました。畑の見た目が、雑草にしか見えなかったので収穫するのが大変でした。でも自分が知らない植物を知ることができ良かったです。
名前の知らない植物がいっぱいあった。雑草みたいなものから、フルーツみたいなものもあった。体験できて良かった。
いろんな木や植物があり、食べ方などもたくさんあるということが分かりました。友達同士で、少ないものがあれば分け合ったり、取ったりして、ここでも助け合いが生まれたのかなと思いました。
縄文人はやまぶどう、栗を山から取っていた。ヒエ、トチ、小豆など、ヤブツルアズキなどを畑で育てて収穫していた。虫がたくさんいたけど、とても楽しかった。
収穫体験では、聞いたことがあるものやないものがあり聞いたことがあるものでも、食べられるとは分らなかったもので、驚きました。
畑での収穫は、学んだことは一見雑草に見える植物が食べていたものだと思ったときには驚きました。感じたことは現代にもある植物が、食べられていたものだと思ったら、昔の人はすごいなと思いました。
畑の収穫体験をしていて、縄文の人はどういうようにして食べられる植物と食べられない植物を区別していたのかを疑問に思いました。
縄文時代の人々は、畑で、色々な植物を育てていて、大豆や小豆の原種は、今の大豆と小豆の面影は少しあったが、あまり似ていなかった。山ぶどうは、今の形と全然違がかった。栗は、いつも食べているものと、少し大きさが違った。
畑で収穫体験をして、感じたことは、縄文時代の人達は、アワやヒエ、エゴマなども育てていてすごいと思った。昔の人達は、食料を自分で取ったり、作ったりしていてすごいなと思った。

【参加校の学習まとめ③】





土地底の森ミュージアムのみなさんへ

先日は旧石器時代(約72万年前)のことについて教えてくださりありがとうございました。自分はもともと歴史が大好きだったのでいつか楽しかったです。その中で一番気になったものは小さな穴です。なぜ石を埋めたのか。どんな需用があったのか分かりませんでした。他には真岩を使って狩りをしていたことも知りました。

色々な道具の中で一番好きな道具は石のやりです。それをつかって狩りをしてみたいなと思いました。

思い出に残る校外学習ができてよかったです。ありがとうございました。

